事例No.	1911
公表年度	R4
団体の属性	複数団体
団体名	兵庫県豊岡市、朝来市、養父市、香美町、新温泉町

事例区分	公営企業

タグ	・病院事業 ・人材確保・育成 ・組織改革

事例種類	広域化等

事例内容・タイトル

複数自治体の機能分担・連携

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【兵庫県公立豊岡病院組合】
複数自治体の機能分担・連携

広域化等　病院事業

兵庫県公立豊岡病院組合総務部総合調整課

● 取組の概要

産婦人科医師の減少等による産科崩壊の危機を乗り越えるため、基幹病院に周産期医療センターを整備し、医療資源の集約化を行い、周産期医療体制の維持を図った。

◆総事業費　建設費17億円

◆背景

- 産科医療施設及び産婦人科医師の減少に伴い、分娩機能の維持が困難になりつつあった。
- この課題を解決するため、基幹病院に周産期医療センターを整備し、医師・助産師等を集約化することで、周産期医療提供体制を確保することとした。

◆具体的内容

- 基幹病院に周産期医療センターを整備し、施設設備や研修環境を充実させる等、医療従事者にとっての魅力を高め、医師・助産師等を集約化し、人材を確保した。
- 基幹病院がハイリスク母子・急変時の対応、中小病院が妊婦健診を実施する等の機能分担により医療資源の効率的な活用を図った。

◆効果

- 医療資源の集約化により、圏域内の分娩機能を維持することができた。
- 医療従事者の確保により、周産期医療センター職員数が増加した。

	平成26年4月	令和3年4月
医師（産婦人科）	6	6
医師（小児科）	6	9
助産師・看護師	39	47

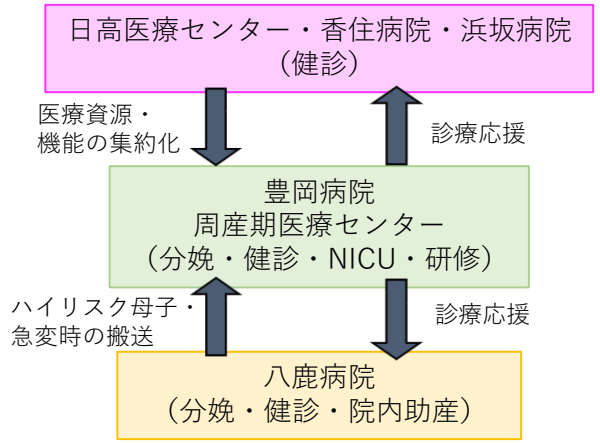
● 取組のポイント

- 圏域全体の課題として市町の枠組みを超え、3市2町が協力して課題解決に取り組んだことが、周産期医療提供体制の確保に繋がった。
- 周産期医療センター整備に係る財源は病院事業債、地域医療再生基金、3市2町負担金を活用した。整備後も3市2町負担金を財源として、魅力アップ事業（教育・研修環境の充実等）を継続している。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　154,719人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　2,133.3km²（令和4年1月1日時点）
- 許可病床　821床（令和3年度決算）

機能分化・連携イメージ



● 取組のスケジュール

- 平成25年3月　3市2町で周産期医療センター整備事業と医師・助産師確保対策事業を実施する基本協定書を締結。平成25年9月　着工。
- 平成27年1月　周産期医療センター開設。

● 今後の展望

- 引き続き、医療人材確保に向けて、大学医局との連携や研修・教育体制の充実を図る。